

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102618		
法人名	有限会社 彩華		
事業所名	グループホームひまわりの社		
所在地	宮崎市潮見町50番1		
自己評価作成日	令和5年9月11日	評価結果市町村受理日	令和5年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和5年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・閑静な住宅地に立地され、交通アクセスも良く、近隣には緑豊かな緑道公園があり、いつもの散歩コースとなっている。 ・日常生活の中でお一人お一人に応じた生活支援を行い、その人らしさを尊重しながら安心して生活できる環境を提供している。 ・この地域に生活する住民として、社会参加や貢献ができるように支援している。 ・自治会に入会し近隣住民との清掃活動にも参加し、地域の情報収集に務めている。 ・毎日 安心して生活できるように、協力医との24時間対応の連携を取っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は、利用者と生活する中で喜怒哀楽を共感しながら、家庭のような暖かい関係づくりに努め、利用者の出番や役割を大切にした支えあいの関係を大事にしている。また、職員会議、研修等を通じて介護のやりがいや誇りを持ち、ケアの質の向上を目指し地域交流も良好なホームである。よりよい暮らしの支援として、個別生活記録、介護支援経過表に記録して情報共有を図り現状に即した介護計画を作成し、24時間対応の協力医のもと、健康管理体制が整っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	分かりやすい理念を作成し目標として掲げている。この理念は職員が常に目に付きやすい場所(職員トイレ・キッチン・スタッフルーム)に貼り、日々意識付けを行っている。	利用者の笑顔を引き出す支援をモットーにレクリエーションを全職員で担当している。理念は目につく場所に掲示し意識付けを行い、2年に1回、理念を見直し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入る事で、総会や地域ボランティア活動に参加している。地域清掃日には住民と顔見知りとなり挨拶や談笑をするなど情報交換の場所にもなっている。	地域との交流が限られているが、地区総会に参加したり、地域清掃日や散策時等で利用者と共に挨拶や会話等で地域住民との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区会長・民生委員・地域包括支援センターの方々と連携を図りながら、地域の高齢者の情報収集を行っている。また地区総会に参加をし認知症の理解を深めていただけるよう話の時間設けている。施設見学の受け入れや相談は随時行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に一度開催し、施設の活動状況や入居者状態を報告し、参加者全員の率直な意見を聞くことで、サービスの向上に繋げている。	区長、民生委員、包括支援センター、家族等の参加のもと運営推進会議を開催している。面会開始の要望があり、協力医に相談して現在、時間限定での面会を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者や包括支援センターには、ホームの問題点や書類の提出など、アドバイスや相談を受けながら連携を図っている。また市が主催している研修にも参加し交流を深めている。	運営や現場の実情、介護保険制度の理解のため情報提供を行い、電話や訪問等で共に課題解決に向けた取り組みを行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、年に4回の勉強会を行い全職員への情報共有を行っている。また当施設は建物2階にあり、玄関を開けると外階段に繋がりが危険性が高い為、入居前にご本人やご家族に説明を行い施錠の理解をいただいている。圧迫感のない生活を送っていただく為に散策やドライブなどを取り入れている。	身体拘束の内容とその弊害を職員がしっかりと認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、ホームの構造上(2階のため階段使用)、半日ほど施錠している。家族にはその理由を説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会より、年4回の勉強会を行い、虐待が見過ごされる事がないように務めている。入居者の変化が見られた際には、早期に話し合い医療機関と連携を図りながら全職員で防止に務める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、必要に応じ勉強会を行うようにしている。制度の必要性がある場合には、地域包括支援センター等を活用していく。また運営推進会議にて、ご家族には周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人やご家族に不安事を尋ね、契約時に管理者・ケアマネジャーより十分な説明を行い、理解・納得を図っている。報酬加算の必要性や利用料金改定の際には文章を作成し、説明を行い理解・納得の上でサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に、ご意見箱の設置や苦情相談窓口のご案内を提示している。また運営推進会議やご家族面会時には話しやすい環境を作る為、職員からの挨拶や声掛けを行っている。ご家族からのご意見や要望には出来る限り対応を行っている。	家族等の意見、要望は職員会議で検討し家族に報告している。預り金の取り扱い方について家族から「見やすい出納帳を作成してほしい」との意見をもらい、出納帳の変更をして喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎月の職員会議に出席することで、職員の意見や要望を十分に聞き、ケアの質の向上に務めている。また、毎月代表者宛に全職員が反省会資料を提出仕組みとなっており、自分の要望や意見を直に伝えやすい環境にある。	全職員が毎月、反省会資料に意見、要望等や月の目標を記し代表者に提出している。職員のその時々々の事情に添った就業・勤務体制を行い、やりがいや働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を含め、職員の日々努力や勤務実績を把握し賞与や昇給に反映している。また働きやすい環境を作る為に、資格取得や勤務調整に随時対応を行い、やりがいのある職場作りに務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の為に、研修内容に応じた職員を参加させている。また研修で得た知識を職員会議にて全職員に伝え、技術や知識を身に付けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やケアマネジャー協会に入会し、同業者との交流を図りながら様々な情報交換に務めサービスの質の向上に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に訪問を行い、本人や家族の意見や不安・要望に耳を傾けている。サービスを受ける際には、再度 ご本人の気持ちを受け止め不安解決に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問や面談・電話等を行いながら、家族の不安や要望・ご本人の想い出来る限り応じられるように務めている。また入所後も本人が困らないよう環境作りに務め信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で「何が必要か」を見極め、必要性がある場合は、ディサービスや有料老人ホームの案内を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と過ごして行く中で喜怒哀楽を共感しながら家族のように暖かく楽しい関係作りに務め信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が入居者と疎遠にならないように、こまめに連絡を行い、現在の状態を理解して頂いている。また面会時には職員と気軽に会話する機会も多く見られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人の訪問は随時受け入れ、いつでも施設に来られる等、これまでの人間関係を継続出来るように務めている。施設内の電話はいつでも自由に使える体制を取っている。また、近隣の散策やドライブ等、懐かしい場所や馴染みの場所を巡り思い出しに務めている。	家族等との面会の再開や電話は自由に使用できる。馴染みの家族等の写真を居室に貼る等の工夫をしたり、宮崎市街等にドライブするなど、場所や人との関係性が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	夏祭り・流しそうめん等、季節を感じるレクリエーションやゲームを利用者全員が参加できる工夫をしている。レクリエーションに取り組めない入居者には孤立しないように簡単な役割をしていただく事で達成感を全員で味わえるように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを個別の事情で終了した場合は、本人やご家族が必要としている関係機関へ連絡し、その後の暮らし方に活かせるようにケア方法や習慣・嗜好等をまとめたサマリーを作成し、いつでも伝達・相談が出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の言葉や行動を観察しながら、その人の想いや希望が叶えられるように務めている。それが難しい方には職員や家族間で話し合い、その方にとって良い方法を考え支援が出来るように務めている。	利用者の会話や表情の中から、思いや意向を汲み取ることができるよう、寄り添うケアに努めている。困難な場合は、家族や関係者からの情報をもとに、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から本人やご家族と情報収集に努め、職員間にて共有をしている。また、今までの生活環境や馴染みの暮らしを意識した支援が行えるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別生活記録用紙にサービス実践の様子、本人の言葉や、表情、心身状態の変化等を記録に残し職員間で共有を行っている。重要な事柄は赤字で記録することで職員が一目で分かるように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の様子に気になる事があれば生活記録に残し、必要に応じて介護計画書の見直しを行っている。介護計画書作成時には本人、家族、主治医、管理者、介護職員等の意見を聞きながら作成を行っている。	よりよく暮らすのための課題やケアのあり方について、関係者が気づきや意見、アイデアを出し合い、出された事を反映した介護計画を作成している。モニタリングは毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録には、本人の発した言葉やケアの様子を記録に残し、職員間で情報を共有し計画書の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間対応の協力医のもと定期的な往診、予防接種、血液検査を行っている。また、薬剤師訪問のサービスも受け、急な病気の対応や個別の治療が出来るように取り入れている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「ひまわりの杜」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地区長、民生委員、地域包括支援センターに出席をいただき地域の情報収集やアドバイスを受けている。また、併設されてるデイサービスでの夏祭りの参加や地域清掃活動参加にての交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医や協力医の往診を支援し安心して医療が受けられる体制が確立している。家族対応受診を希望される方には本人の現状が分かるように情報提供を行いスムーズに受診が出来るように支援している。家族対応受診に必要であれば職員が付き添い情報把握に務めている。	本人家族の希望する医師による継続的な医療を受けられるように支援している。受診結果に関する情報の共有は、電話連絡を行い、ケース記録に記入している。協力医の夜間往診や他科受診の対応もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に変化が見られた場合には、事業所内に在籍している看護師に相談し、24時間対応の協力医からの指示を仰ぐ、必要であれば往診及び受診同行が出来る体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療関係者に情報提供を行いケアについての話し合いの場を設けている。入院中には面会を行うことで病院関係者との情報交換を行い、早期の退院が出来るように務めている。退院時にはカンファレンスを行い情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針の下、事業所がどこまで出来るかを家族と話し合いを行っている。また、段階に応じ、本人、家族の意見を聞くと共に施設で行える医療行為の範囲を理解していただき、医療関係者、職員、家族との連携を行い支援をしている。	看取りに関する指針をもとに家族に説明を行い、重度化した際の方針について書面で同意を得ている。かかりつけ医等、職員、家族と連携して随時、本人や家族と話し合い、内容を記録に記入し情報の共有を図り、終末期の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月開催される職員会議にて、事故や急変時の勉強会を行うと同時に、対応マニュアル・緊急連絡先をスタッフルームに提示し迅速な対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同事業所一階にあるデイサービスと合同避難訓練及び夜間想定避難訓練を年2回行っている。また事業所内での防災対策委員会を設置し年6回の勉強会や備蓄品の確認を行うと共に、地域住民協力のもと、夜警の巡回をしていただいている。	水害時は地域住民の避難場所になっている。災害に備えた備品等の準備や地域住民による夜警巡回の協力を得ている。避難路の設備(階段の夜間用照明灯、手すり)、設備が十分ではない。	起こりうる事故やリスク、被害予測を検討し、構造上、危険と考えられる事案の整備強化や、利用者等の生命の安全確保、態様に応じた避難体制の強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お一人お一人に対して、職員は尊厳を持ち声掛けや誘導を行っている。また、居室やトイレ時には勝手な出入りをせずノックや声掛けを行っている。	利用者のその人らしい人格を尊重し、自己決定を促すような声掛けを行い、居室やトイレを訪室する際は必ずノックや声掛けを行い羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、入居者の表情や行動を見ながら、状況に応じた声掛けを行い、希望や想いを聞いている。また判断に迷う事があれば安心する方へ促し自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを確保しながら臨機応変に時間配分を行っている。誘導や声掛けに拒否が見られたら、時間を置いたり、職員を変えたり等の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて衣類選びを職員と相談しながら行ったり、家族と話し合いながら自宅にある衣類を持参、購入をしている。また、二ヶ月に一度のヘアーカットを行い、その人らしいおしゃれが出来るように務めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事に合わせたメニュー作りや盛り付けの工夫しながら美味しく味わっていただけるようにしている。またおやつタイムには利用者と一緒に手作りの物を作るなど、入居者の出来る能力を引き出している。	職員は、利用者の好みや能力を引き出しながら、一緒に食事が楽しいものになるように支援している。食について主治医に相談し適切な食生活を送ることで病気療養者が少なく食事が楽しいものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量が分かるようにチェックシートにて記入し把握している。同事業所に在籍している調理師にて月～金の昼食、夕食を提供し美味しく食事をしていただいている。また食事量が少ない方には主治医に相談を行い栄養補助食品の処方をしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれが出来る範囲で口腔ケアをされている。職員は磨き残しが無いように一人ずつ口腔ケアにつき、必要に応じて介助に入っている。必要時には歯科医の往診が受けられる体制作りを行っている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「ひまわりの杜」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて利用者の排泄パターンを把握している。必要に応じて声掛けや誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう自立に向けての支援を行っている。また入居者それぞれのオムツやパット使用について、職員会議にて話し合いを行っている。	日中はトイレで排泄介助を行っている。職員会議で排泄チェック表を確認し、一人ひとりに合った排泄用品の検討を行っている。おむつ使用の利用者をトイレに誘導し、トイレでの排泄が可能となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や風船バレー等、身体を動かすレクリエーションの取り入れや、食材の工夫を行い便秘の予防に務めている。それでも便秘改善が見られない方には主治医と相談を行い内服薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一週間に3回の入浴支援を行っている。お一人お一人のタイミングに合わせ、入浴順番には配慮しながら入浴を楽しんでいただいている。入浴拒否が見られた場合には、時間をずらしたり声掛けを工夫しながら無理強ひすることなく入浴されている。	季節によりゆず風呂等の楽しみを取り入れた入浴を行い、個々の希望に沿った入浴を支援している。浴室入り口には段差があり、手すりの設置がなく浴槽は深く、安心、安全な入浴の支援が難しい状況である。	職員は、寛いだ気持ちで入浴できるように支援しているが、安全、安楽な介護には至っていない。利用者が安心、安全に入浴できるように点検、改善に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を理解しながら、日中の家事活動やレクリエーションに参加を促し活動的に過ごす事で夜間の安眠に繋げている。昼食後にお昼寝をされている方もおり、休息の時間も個々に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れを防ぐために、職員や薬剤師にて服薬管理をしている。処方された薬が届いたら生活記録へ赤字にて記録を残し、全職員が情報共有できるような仕組みにしている。薬についての疑問や副作用と思われる状態が出たら、主治医や薬剤師に連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴に配慮しながら、役割や楽しみ方を支援している。近隣の散策やドライブを取り入れ気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は、個別の希望に添えるように近隣の散策やドライブ等を行っている。ご家族の協力が得られる利用者は個別に外出をされ喜ばれている。	近隣の緑道公園の散歩や宮崎市街へドライブを行っている。家族とは病院受診や食事に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望されている方には、家族と相談し了解の下所持されている。家族より毎月現金持参や振込をされた場合は施設にて管理を行い、毎月家族宛てに領収書を郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便箋や封筒を用意し、いつでも手紙が書いて出せるように準備をしている。また事業所内の電話は24時間自由に使えるようしており、電話を掛けられない利用者には職員が電話を掛け話せるように支援している。外部からの電話は別室で会話できるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地の良い場所になるように環境設備を行っている。ホール壁面には季節に合わせた作品を利用者、職員と一緒に作り展示している。また、空調にも配慮し必要に応じて加湿器や空気清浄機を使用している。	壁面には、利用者と職員と一緒に作った季節の風景の作品が飾られている。ほとんどの利用者がホールで日中過ごし、居心地よく過ごせ、安心感のある共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には椅子を何方所に置き、いつでも話が座ってできる環境を作っている。ホール座席には性格や身体状態を考慮しており、必要時には席を変えていくようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた家具や寝具を用意していただき、離れた家族をいつでも見れるように写真を置いたり、本人にとって居心地の良い居室作りに務めている。	使い慣れた馴染みの物を活かして、本人本位に暮らせる落ち着いた場所になっている。居心地よく暮らせるように、家族の写真、利用者と職員と一緒に作った作品等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が入居者一人ひとりの出来る事を理解し、その人の力に応じた声掛け、見守り、介助を行い安全に過ごせるようにしている。また職員会議にて介護方法や環境整備の話合いを行い実践している。		